

平成29年度さいたま市水道事業会計決算の概要

1 決算のポイント

■ 平成29年度の主要な取組

重要施策事業として水道施設整備事業を推進しました。特に、老朽化した施設の改良・更新、耐震性の強化等、水道施設の向上に努めました。

水道施設整備事業

老朽管更新、配水管布設、配水ブロック整備、深井戸の改良・更新など、水道施設の整備のほか、浄水場設備の耐震化にも取り組みました。

■ 基本業務量

項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減	
給水件数	件	581,368	589,940	597,988	8,048	
年間総給水量	m ³	131,133,150	130,687,340	132,054,750	1,367,410	
	受水	m ³	114,361,810	116,836,310	2,474,500	
	地下水	m ³	15,413,120	16,325,530	15,218,440	△ 1,107,090
1日最大給水量	m ³	392,040	390,540	403,930	13,390	
1日平均給水量	m ³	358,287	358,048	361,794	3,746	
年間総有収水量	m ³	124,252,485	125,360,045	125,642,632	282,587	
有収率	%	94.8	95.9	95.1	△ 0.8	
料金収入(税抜)	円	26,417,646,577	26,641,222,743	26,697,457,938	56,235,195	

有収率とは、年間給水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標です。

■ 水道水をお届けするための収支(税抜)

(単位:千円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減
収益的収入	30,218,797	30,509,578	30,496,808	△ 12,770
収益的支出	24,481,102	24,254,057	24,677,211	423,154
収支差引	5,737,695	6,255,521	5,819,597	△ 435,924

■ 施設を整備するための収支(税込)

(単位:千円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減
資本的収入	2,536,640	2,135,085	3,041,172	906,087
資本的支出	14,173,077	17,061,812	15,663,182	△ 1,398,630
収支差引	△ 11,636,437	△ 14,926,727	△ 12,622,010	2,304,717

不足額については、損益勘定留保資金や純利益などで補填しました。

損益勘定留保資金とは、減価償却費など実際に現金の支出がない費用計上によって生じた資金のことです。

■ 損益計算書

(単位:千円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減
水道事業収益	30,218,797	30,509,578	30,496,808	△ 12,770
営業収益	28,880,132	29,176,892	29,174,235	△ 2,657
営業外収益	1,337,511	1,331,657	1,321,137	△ 10,520
特別利益	1,154	1,029	1,436	407
水道事業費用	24,481,102	24,254,057	24,677,211	423,154
営業費用	23,046,922	22,925,973	23,469,156	543,183
営業外費用	1,432,296	1,324,739	1,206,773	△ 117,966
特別損失	1,884	3,345	1,282	△ 2,063
当年度純利益	5,737,695	6,255,521	5,819,597	△ 435,924

当年度純利益は水道管や施設の更新などのための財源として使用します。

■ 貸借対照表

(単位:千円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減
資産	213,617,762	215,996,488	219,524,643	3,528,155
固定資産	192,523,832	196,373,436	198,760,593	2,387,157
流動資産	21,093,930	19,623,052	20,764,050	1,140,998
負債	97,879,496	94,002,702	91,711,260	△ 2,291,442
固定負債	55,853,438	52,256,511	49,871,815	△ 2,384,696
流動負債	11,023,010	10,733,030	11,067,935	334,905
繰延収益	31,003,048	31,013,161	30,771,510	△ 241,651
資本	115,738,266	121,993,786	127,813,383	5,819,597
資本金	101,491,732	106,639,805	112,377,501	5,737,696
剰余金	14,246,534	15,353,981	15,435,882	81,901

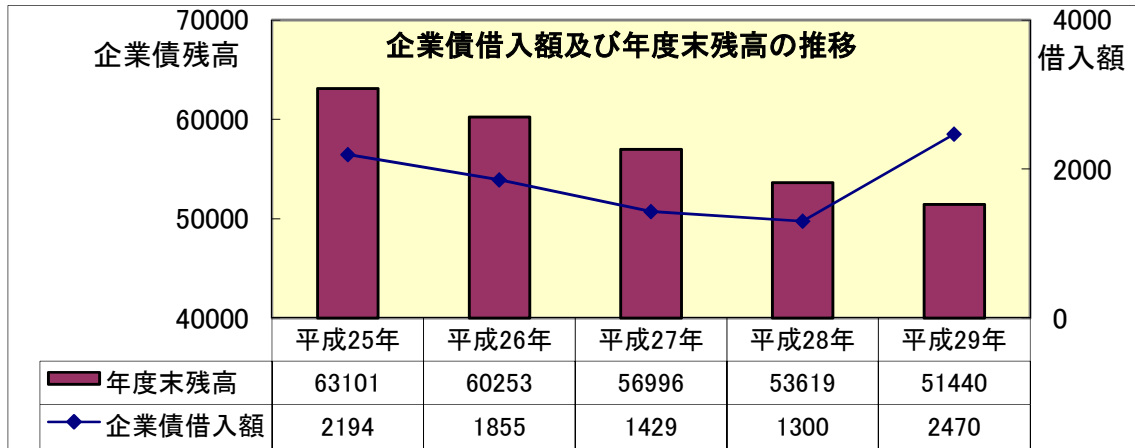
■ キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前年増減
資金期首残高	16,931,107	15,802,816	15,348,653	△ 454,163
資金増減額	△ 1,128,291	△ 454,163	1,131,964	1,586,127
業務活動による キャッシュ・フロー	12,420,914	12,531,079	13,025,813	494,734
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 10,273,618	△ 9,571,973	△ 9,660,942	△ 88,969
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,275,587	△ 3,413,269	△ 2,232,907	1,180,362
資金期末残高	15,802,816	15,348,653	16,480,617	1,131,964

■ 企業債残高

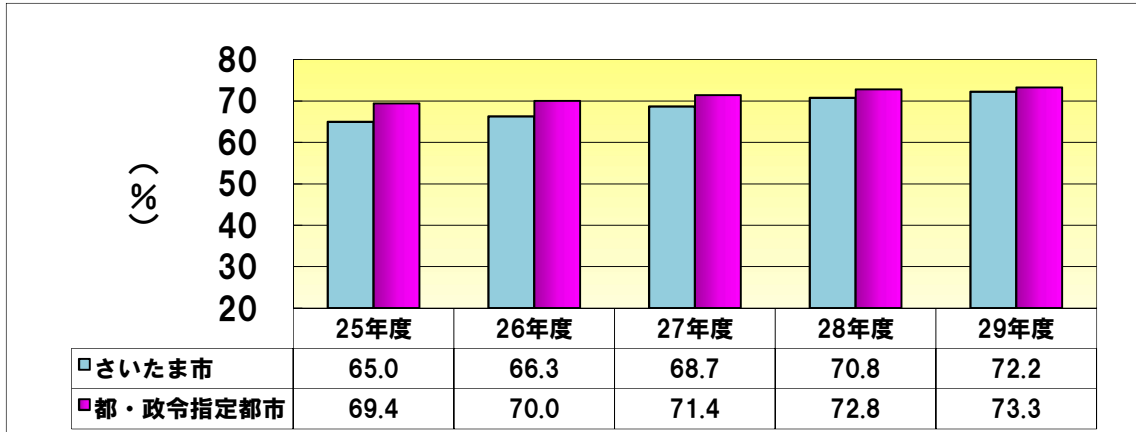
(単位:百万円)



2 財務分析

平成 29 年度決算の代表的な経営分析指標を、都・政令指定都市の平均値と比較します。

■ 自己資本構成比率

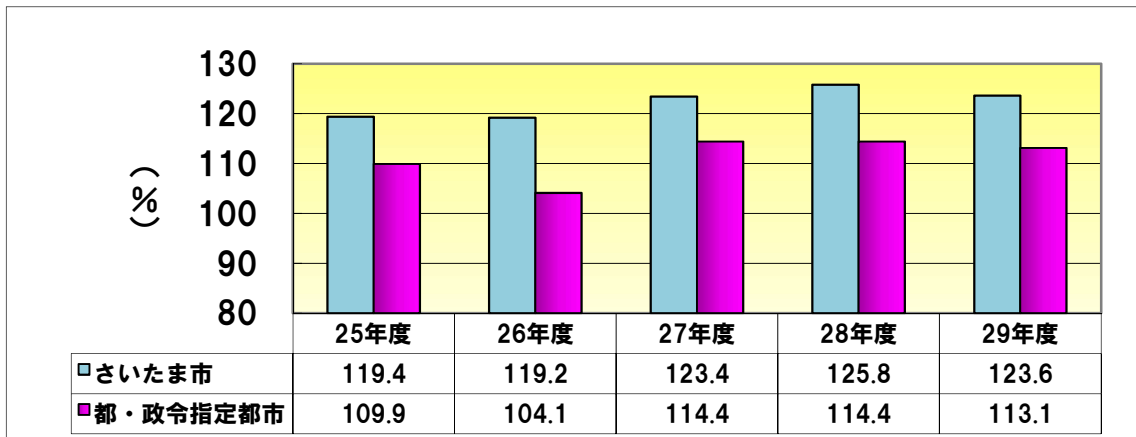


自己資本構成比率

総資本(負債・資本)に占める自己資本の割合。
財務的健全性を示す指標の一つです。

さいたま市の自己資本構成比率は、都・政令指定都市の平均に比べて低くなっていますが、改善傾向にあり、安定的な事業運営を行っています。平成 29 年度には約 21 億 8 千万円の企業債を削減しました。

■ 総収支比率

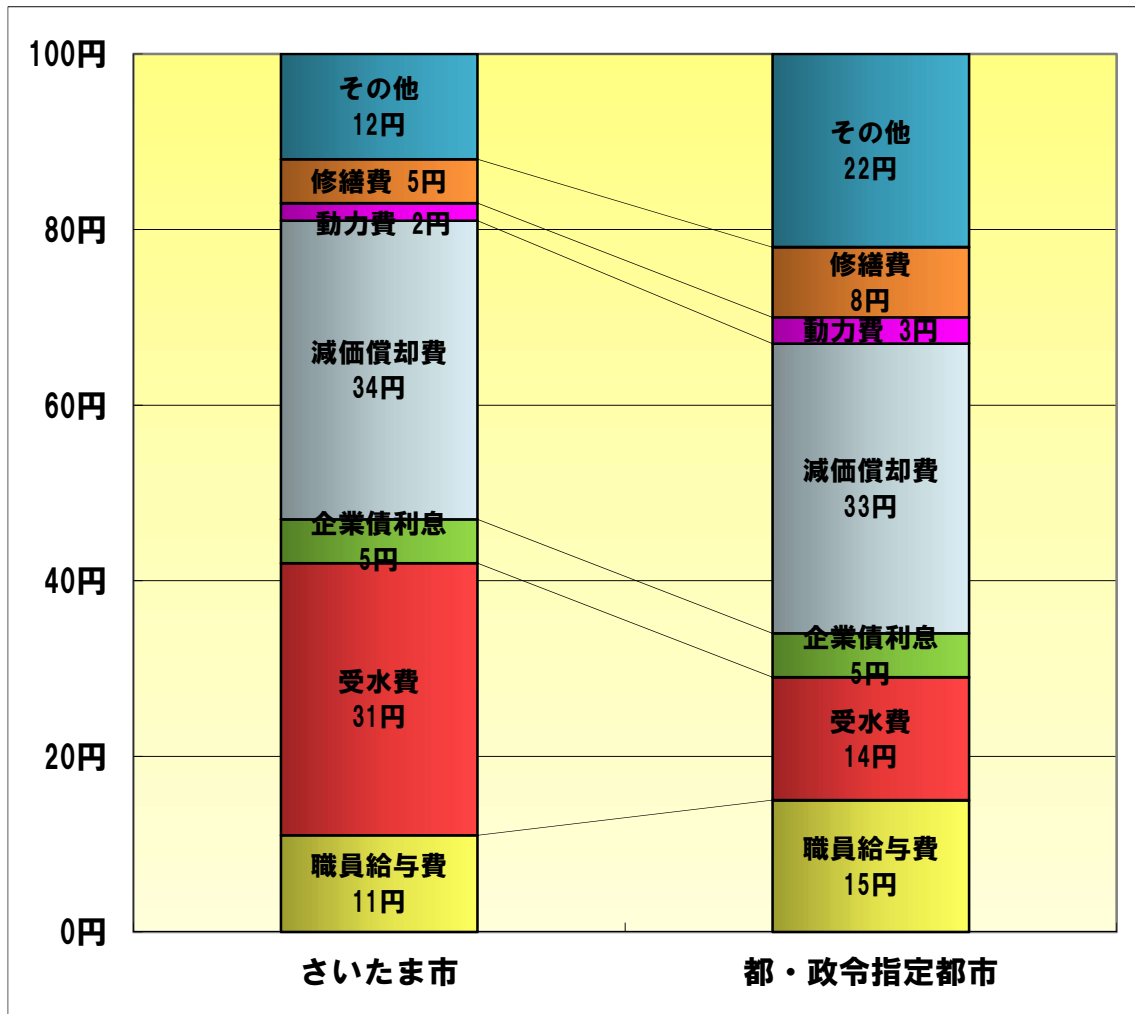


総収支比率

総費用に対する総収益の割合。
総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、100%未満の場合は、収益で費用を賄えないことになります。

さいたま市の総収支比率は、都・政令指定都市の平均に比べて高くなっており、指標も 100%を超えていることから、一事業年度の経営成績は良好といえます。

■ 水道料金100円当たりの使われ方(税抜)



上図は、さいたま市の水道料金100円当たりの使われ方を、都・政令指定都市の平均と比較したグラフです。

職員給与費は、水道局職員(臨時職員を除く)の人件費です。業務状況の違いもありますが、都・政令指定都市等の平均と比較して、さいたま市の方が低く抑えられています。

受水費とは、自己水源だけでは不足する「水」を他団体から購入する費用です。さいたま市では給水量の約 88%を埼玉県営水道からの受水で賄っています。そのため、都・政令指定都市の平均と比較して大幅に高くなっています。

支払利息及び減価償却費が上のグラフの中で占める割合が高くなっているのは、耐震化事業や老朽管更新事業等を推進したためです。

老朽管の布設替えなど諸政策の推進により、漏水の修繕件数は減少傾向にあります。水道施設の老朽化の進行もあり、修繕費は横ばいで推移しています。